

事業計画書

事業名	都市近郊に『緑のオアシス』を造成保全する手法を開発する
種類	特定分野事業ネーミング枠 (株)富士薬品ドラッグセイムス 環境保全支援事業)
1. 事業の目的	近年自然やみどりが漸減している都市近郊の自然環境を回復する一環として農地や庭、空き地の一角に昆虫や鳥などが棲める『緑のオアシス』をつくり自然豊かなまちづくりや生物多様性の保全に貢献する。その成果を展示会および印刷物、オンラインなどで公表し普及に努める。
2. 事業で取り組みたい地域や社会の課題	<p>(1) 法人の設立目的・これまでの活動・成果</p> <p>①設立目的：地域の自然環境内の生物の観察・調査により、自然環境の保全に寄与することを目的とする。</p> <p>②活動：上尾市、桶川、久喜、幸手、宮代、熊谷などの7か所に緑のオアシスをつくり、食草ウマノスズクサを植栽しジャコウアゲハを定着させた。ユキヤナギやダイオウグミ、秋の七草を植え、テントウムシ類、カマキリ類、クモ類を保全した。メジロ、ウグイス、キジ、コゲラ等の鳥類も飛来するようになった。</p> <p>③成果：身近な自然や昆虫の生態の展示解説会を埼玉県県民活動総合センターで年3回、公民館、自治会で年数回開催し、環境教育に貢献してきた。2021年度は自然観察と生態系補償に関する広報誌発行・配布、オンライン観察会などを行い、自然保全や生物多様性の保全の啓発を行った。</p> <p>(2) 課題</p> <p>①都市近郊は宅地化が進み農地や平地林は年々減少し、多様な自然や緑地が失われている。</p> <p>②地域内の生物相は単純化し、生活の質—QOLの指標となる緑地や生物多様性の保全手法の確立が求められている。</p> <p>(3) 重要性等</p> <p>都市近郊の庭、農地、空き地の一角に各種植物を植栽した『緑のオアシス』を創り、植物、有用生物（昆虫類、クモ類、両生類、鳥類）を温存し、多様性を回復し、自然保全や日常生活に潤いをもたらすシステムづくりを提案する。</p>
3. 具体的な事業内容	<p>(1) 『緑のオアシス』の造成と保全に関する調査：</p> <p>趣旨：都市近郊の上尾（蜜源植物、在来生物の保全）、農域内の桶川（蜜源と在来生物の保全）、久喜（在来庭木と生き物保全）、幸手（休閑地で秋の七草と水稻の保全）の一角に（計4か所）、生物多</p>

	<p>様性の保全をねらい、多様な植物、例えばウマノスズクサ、タチヤナギ、ユキヤナギ、アベリア、ムラサキハナナ、カラムシ、シロダモ、ナデシコ、秋の七草、コマツナ（花）、ダイコン（花）、ブットレア、クロタラリア、ハーブ類、イネ、ダイズ、プラム、ウメなどを植栽し緑のオアシスをつくる。</p> <p>① 時期： 6～7月（栽培準備）、7～11月（植栽管理、生き物調査）。 ② 調査対象： 特別保全生物に指定したジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、タテハチョウ類、天敵生物のテントウムシ類、オサムシ類、ハナバチ類、有用なイナゴ、クモ類、コゲラ、モズ、ヒバリ、キジ、冬鳥（ツグミ、ジョウビタキ）などの生物類を調査ターゲットとする。 ③ 調査方法： 緑のオアシスに発生する動植物の種類と発生数を7～11月に、月2回調査する。観察した昆虫類の一部を教育用の標本にする。 ④ とりまとめ、2月に調査結果をまとめ報告書を作成する。</p> <p>（2）地域の標準生物相の解明に関する調査</p> <p>①趣旨： 地域の生態系を反映している生態系の生物相を解明する。 ・7～11月 生息相の調査 ・12～1月 ターゲット種の越冬を確保するために、隠れ場所になる樹種の温存、越冬場所（ビートルバンク）を解明する。 ②とりまとめ、2月に調査結果をまとめ報告書を作成する。</p> <p>（3）野外観察と体験学習、成果の公表</p> <p>①趣旨： 環境教育として緑のオアシスおよび生態園で調査した昆虫の標本を公民館や埼玉県県民活動総合センターのイベントで展示解説する。来訪者見込み毎回150～200名。 ②体験学習： 子供向けの標本作製、野外観察会の体験学習会、イナゴ採集会、稲の収穫祭などの体験を行う。参加者見込み毎回30～50名。対面集会ができない場合はオンライン実施を計画する。 ③成果の公表： 観察・調査の結果を整理し、展示、報告書を作成する。</p>
<p>4. 具体的な事業の実施計画</p>	<p>（1）『緑のオアシス』の造成と保全に関する調査</p> <p>①実施までの準備： 6月以降に緑のオアシスを造成し、7月までにチョウ類の餌植物、蜜源花粉植物を植栽し、管理・除草を行う。 ②動植物の発生数調査： オアシスの動植物の発生消長を把握するために、7～11月に月2回調査する。展示用昆虫類の標本をつくる。</p> <p>（2）地域の標準生物相の解明に関する調査</p>

	<p>①趣旨：地域の生態園で生息相の調査を7～11月は月2回行う。12～1月はターゲット種の越冬を確保するために、越冬場所（ビートルバンク）の植物と隠れ場を温存する。</p> <p>②実施：12～1月に成績をまとめ報告書を作成する。</p> <p>（3）野外観察と体験学習、成果の公表</p> <p>①環境教育：8月、11月、公民館等で広報する。来訪者見込み毎回150～200名（内大人50人）。広報チラシとパウチを印刷・配布する。</p> <p>②体験学習、子供向けの標本作製、昆虫観察会、バードウォッチング、イナゴ採集会、稲収穫祭等の体験学習会を開催する。参加者見込み毎回20～40名（うち大人10人）。 ・対面集会ができない場合はオンライン実施を計画する。</p> <p>③環境教育や体験学習に必要な展示や成績の取りまとめの参考にするために先進地の長野県昆虫資料館及び道の駅展示館を訪問し調査する。</p> <p>○事業のスケジュール</p> <table border="1" data-bbox="539 981 1390 1675"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>調査内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>緑のオアシスの造成・準備、</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>緑のオアシスの管理、生態園調査、標本作製</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>生態園の調査、イナゴの調査・採集会、 広報活動・体験学習（標本作製）</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 広報活動・環境教育（公民館等） 稲収穫祭、標本作製</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 生物相調査</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 調査結果と広報活動のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>	時期	調査内容	6月	緑のオアシスの造成・準備、	7月	緑のオアシスの管理、生態園調査、標本作製	8月	生態園の調査、イナゴの調査・採集会、 広報活動・体験学習（標本作製）	9月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査	10月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査	11月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 広報活動・環境教育（公民館等） 稲収穫祭、標本作製	12月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 生物相調査	1月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、	2月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 調査結果と広報活動のまとめ
時期	調査内容																				
6月	緑のオアシスの造成・準備、																				
7月	緑のオアシスの管理、生態園調査、標本作製																				
8月	生態園の調査、イナゴの調査・採集会、 広報活動・体験学習（標本作製）																				
9月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査																				
10月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査																				
11月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 広報活動・環境教育（公民館等） 稲収穫祭、標本作製																				
12月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 生物相調査																				
1月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、																				
2月	生態園の調査、緑のオアシスの生物相調査、 調査結果と広報活動のまとめ																				
<p>5. 事業の実施体制</p>	<p>○事業の実施について</p> <p>① 総括責任者 平井一男 ② 連絡責任者 塘 久夫</p> <p>② 現場責任者 江村 薫 渡邊俊朗 ④ 経理責任者 関口知宏</p> <p>⑤ 広報責任者 平井一男</p>																				
<p>6. 来年度以降どのように事業を</p>	<p>県内の都市（住宅街）、農地（休閑地）、森林・あぜ道などの空き地の一角に、有用で生活の質を高めるような生き物が集まる『緑のオ</p>																				

継続し発展させていくか	アシス』の造成を地域の賛同者に呼びかけ普及していく。『緑のオアシス』の広報も対面やオンラインで積極的に推進していく。
7. 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること	今回の事業に参画するメンバーは学生時代や職歴から農業生態系、昆虫、鳥、植物などの専門性の高い50余年のキャリアで構成され、各地域の『緑のオアシス』の造成、管理、生物多様性の保全、環境教育の推進に貢献できる資質を備えている。